

漁業士会のチャレンジ

～ボール・ローラー事故対策VTR作成、マリン・カレッジに取り組んで～

茨城県漁業士会
岡田英男

1. 地域と漁業の概要

茨城県は日本列島が東西方向から南北方向へ屈曲する北関東に位置し、海岸線は南北に約180kmの平坦な形をしている。その北半分は磯場の常磐南部海域、南半分は砂浜の鹿島灘海域と呼ばれ、黒潮と親潮系水が交差する好漁場を形成している(図-1)。

県内の漁業経営体数は14漁協全体で650前後で、その内、5トン未満船が9割以上を占める沿岸漁業中心の地区である(表-1)。

このような条件の下、中核的沿岸漁業者は海況変動に合わせてシラス、オキアミ、イカナゴ等の回遊性魚類を多獲する一艘駆け回しによる船曳網漁業と鹿島灘はまぐりに代表される砂浜性二枚貝を漁獲する貝桁網漁業やヒラメ等を対象にする底刺し網漁業(建網)を基幹漁業としている(表-1)。

また、このように平坦な海岸地形で外洋に面しているため、養殖漁業は皆無である。

表-1. 階層別・業種別経営体数(H6)

階層	経営体数	業種	経営体数
～1	58	釣等	258
～3	155	建網	42
～5	385	船曳	298
～10	3	小底	31
10～	50	沖底	10
計	651	旋網	15

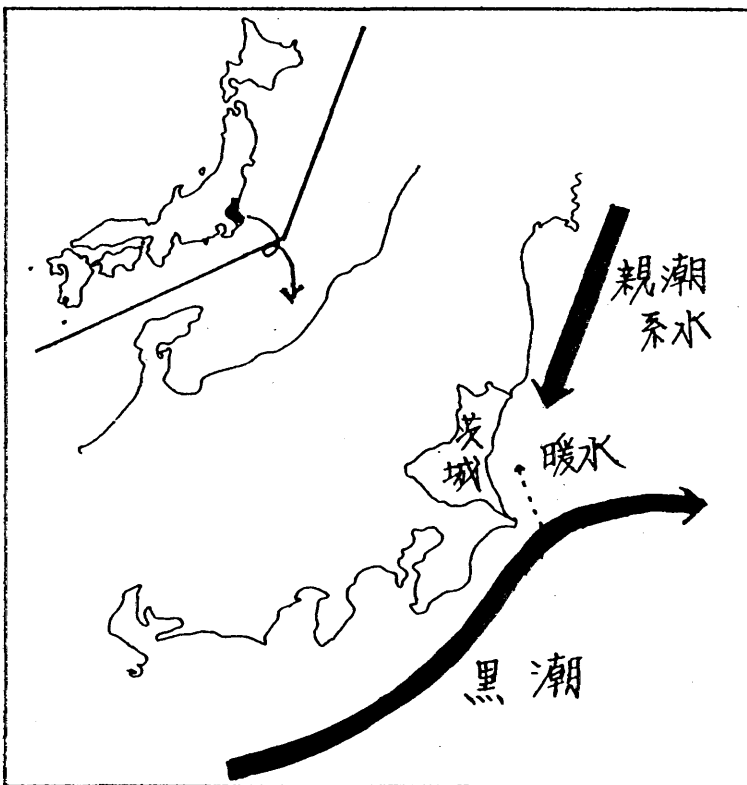


図-1 茨城県位置図

2. 研究グループの組織及び運営

茨城県漁業士会は昭和61年以来43名が認定を受け、平成2年に有志が声を掛け合い、全員参加の下で茨城県漁業士会を結成した。

各地区からの役員10名で役員会を構成し、役員互選で会長1名、副会長2名、幹事2名の役職を選出している。

会の運営は会費のほか、組合からの補助、水産振興事業団などの経済的支援で成り立っている。

3. 活動選定の動機

会発足以来、先進地視察、県行政との懇談など定期的に実施しているが、会では「漁業士(会)と研究会・青年部との違いは何か」、「漁業士(会)の活動はどうあるべきか」など、常に話題にしていた。

漁業士会では地域を越えた「全県的なことに取り組む」のがよいのではといった問題意識を持っていた。

各地域、各研究会では嫁さん不足や油圧揚網機による巻き込み事故への対策の必要性を感じていた。

揚網機事故については「事故は自分の不注意であり、自己に遭ったことは恥である」との意識が強く、予防策を呼びかける具体的な活動への結び付きは生まれなかった。

嫁さん対策は企画、人集めなど雲をつかむようなことであり、また、結果への不安が大きく、誰か、何処か先に取り組むところが無いかなどと、それぞれが様子うかがいの状態であった。

表-2. 揚網機事故件数(死亡事故数)

年	1人乗り	2人乗り	3人乗り	4人乗り	不明	計
S56	1					1
S57						
S58	2					2
S59	1					1
S60						
S61						
S62	2	1	1			4
S63	1	1		1		3
H 1	3 (1)		2		1	6 (1)
H 2	1 (1)	1	3			5 (1)
H 3	1	2		1	1	5
H 4		6	1		2	9
H 5	2 (1)	3				5 (1)
計	13 (3)	14	7	2	4	41 (3)

4. 実践活動の成果

各地域や研究会での取り組みが難しい、全県的な問題として、以下のことについて漁業士会では取り組み、活動を行った。

〈ボールローラー事故対策 VTR作成〉

揚網機事故は油圧装置の大型化、高馬力化が進む中で頻繁に発生しているが(表-2)、この表以外にも発生している。

取材に応じることは「自分の恥を晒す」ことという雰囲気があり、事例紹介のモデル依頼

が心配であったので、漁業士会の事故体験者を中心にモデルになってもらい集録した。

VTR製作は役員の名がまとめ役になり、事務局と協力して大筋の脚本(筋立て)を作り、撮影・編集などは茨城キリスト教大学シネマ研究会に製作費15万円をお願いした。

第1回目(H7年)の収録VTRを各地区の集会や漁船技術者講習会でPRしたが、操業のスピード化、効率化が進める中で、「機械を使うから事故は仕方がない」、「不注意だから起こす」の意識が強く、事故の予防策、未然防止案は出せなかった。しかし、この放映を契機に、対策等についてもほしいとの意見が有り、会員を中心に事故時の操業状況と予防措置等に関するアンケート調査を実施し(表-3)した。

その結果、操業の効率化、スピード化と両袖網をまとめる時の作業位置によって事故が多いことが分かったので、平成8年に2回目(改定版)を収録した。

予防対策として

- ・各揚網操作段階ごとにメリハリを付ける＝慌てない、急がないこと
- ・特に袖網を一方のローラーにまとめる時に連続操作しないで、一息入れるて操作する
- ・揚網機のとモ側での作業をしない
- ・一個のローラーで揚網出来る機器の開発
等が上げられた。

事の被害を小さくするためには

- ・緊急停止レバーの装着
 - ・ローラーのエア抜装置を装備する
 - ・ローラー支持基部の手の届く所へ遠隔操作装置をセットする(メーカーの開発希望)
- 等があれば、怪我も最小限に抑えられる。

表-3. ボール・ローラー事故対策アンケート調査結果

回答者数	事故体験者数	左右の違い			作業位置			対策等
		左舷	右舷	他	前	後側	他	
39	22	6	9	7	6	12	4	①急がない。②各作業間にメリハリ。 ③ローラーの後に立たない。 ④1個のローラーで巻ける機械の開発。

〈マリン・カレッジ〉

第1回のマリンカレッジを平成7年6月に旭村滝浜海岸で開催。初めての取り組みということで、「会の運営、人集めのKnow Howを把握する」と「水産関係団体に務める女性たちは意外と漁業(者)を知っていないので身近な彼女達に漁業を知ってもらう」の二目標を忍ばせて、副会長が中心になり企画した。

参加者は女性71名、男性64名、スタッフ併せて160名にもなる大パーティーになった。参加者は開始一時間前から集合しているという状況で、スタッフ一同大慌て、無我夢中の進行で終わった。

カップルは成立しなかったが、参加者から「規模が大き過ぎた」、「年齢階層に幅が在り過ぎた」などの問題が指摘され、スタッフからは司会進行の再検討必要性など、次回への貴重な反省材料が得られた。

第2回は“フェスタ・DE LA KASHIMA”のネーミングで平成8年8月に鹿嶋地区の漁業士が中心になって開催した(女性13名、男性20名)。

シャイな男性が多かったためか、カップルの誕生は見られず、今後の課題として参加者自身が自分の問題として如何に積極性を持つようにさせるかが浮かび上がってきた。

広報は県庁記者クラブ(朝日、産経、NHK、茨城)、タウン誌2社に情報を提供した。

表-4 マリカレッジ概要

年月日	ネーミング	参加者人数	備考
7.6.11	マリンカレッジ	女性71、男性64	年齢層に幅大。人数が多過ぎ。進行に問題。広報方法。
8.8.31	フェスタ・DE LA KASHIMA	女性13、男性20	お客さん気分抜けず。自分自身の問題認識。計画参画方法。

5. 波及効果

今回は誰もが見えない結果を恐れて挑戦出来なかったことに漁業士会として取り組んだが、その結果、

- ・失敗や結果を恐れずにやってみるチャレンジ精神に漁業士ばかりではなく、研究会にも目覚めさせた。
- ・VTR撮影を通じて学生と交流ができ、乗船しての撮影などから漁業について知らせるチャンスが作れた(イメージを変えた)。
- ・機器類の利便性中心の志向オンリーから、安全性追及の考え(操作のやり方、メーカーへの安全性の開発提言)を持てるようになった。
- ・県漁連(機関工場)も安全性を高める機械の改良、開発に取り組み始めた。
- ・転落時の緊急発信装置や音声制御装置等への改良提言に見られるように、事故は隠すものではなく、経験を伝えることが皆への注意を喚起するものだという気運が高まった。
- ・マリンカレッジ“フェスタ・DE LA KASHIMA”では広報(朝日新聞)を見たボランティアグループ“いきがい茨城”から司会の申し出があり、一般市民との交流の糸口が出来た。
- ・平成8年7月に地区の漁業士を中核にして大洗町漁業研究会が独自に自分たちの問題として“Seaside Party in 大洗”に取り組み、二組のカップルが誕生した。
- ・一度の結果で萎えずに、継続することにより、次の課題と展望が開けることが分り、「継続は力」だと思えるようになった。

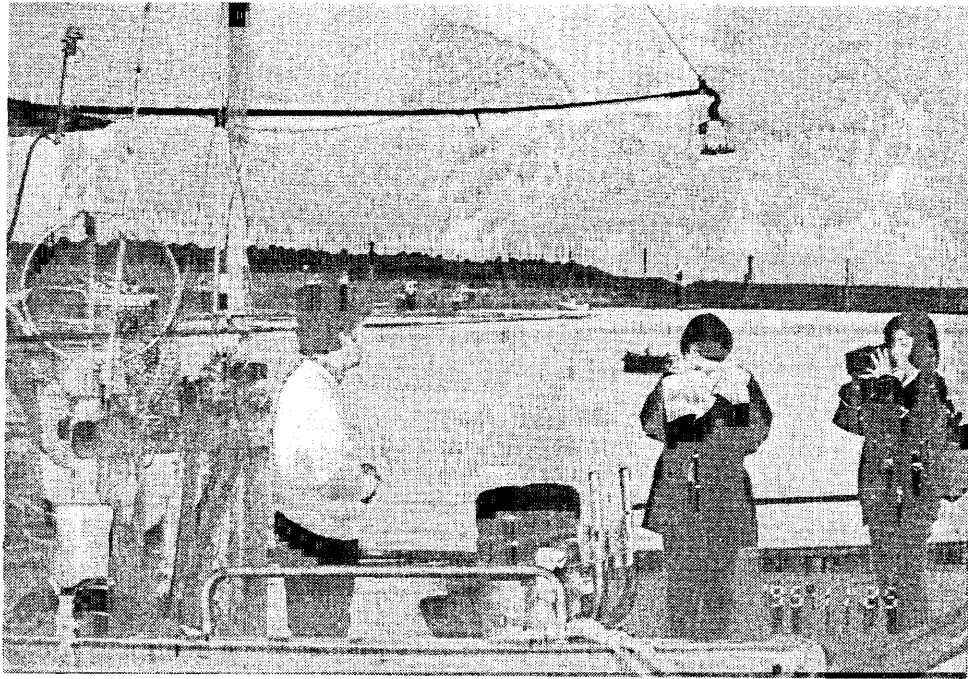
6. 今後の計画と問題点

地域やグループといった内々に小さくまとまらず、広範でオープンな話し合いにより、「対策」、「案」を産みだせる可能性がある。

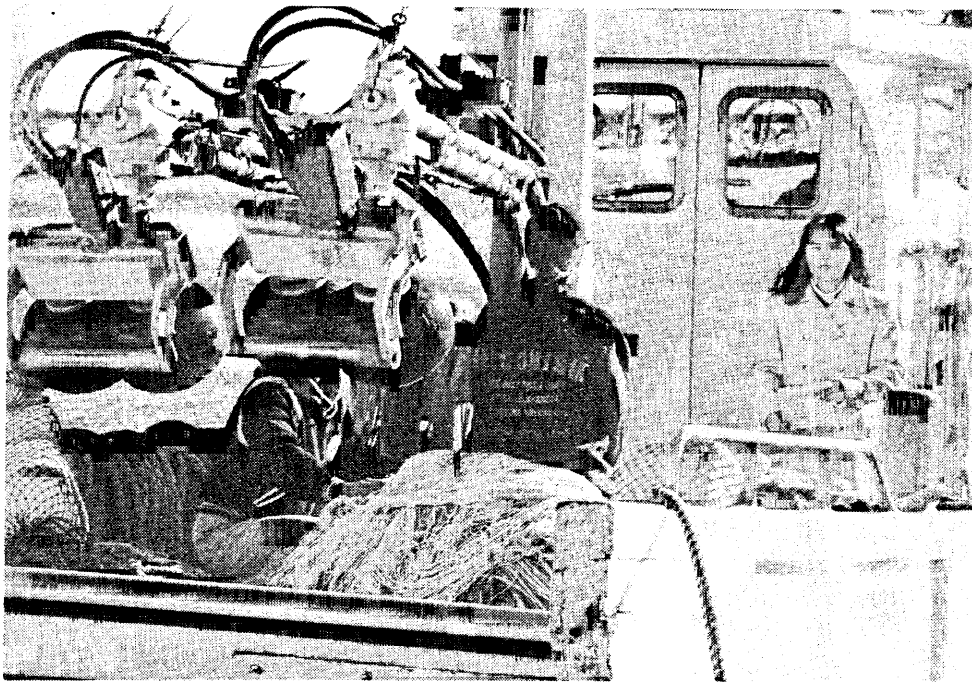
何事も取り組んでみなければ分からない。継続することの大事さが分った。

今後はこの結果を素に広く、フランクに話し合える場作りの活動と共に、ドン・キホーテとは云わないが、結果を恐れずに挑んで行きたいと考えている。

当面の課題としては、平成9年には中・北部地区でマリン・カレッジ開催を予定しているので、大洗町漁業研究会の事例を参照に参加者(研究会員等)をどう取り込んで計画を立てるか、どうしたら参加者を当事者に仕立てて、主体的に活動出来るかなどを検討する予定である。



夕闇迫る中での取材風景(Vローラー)

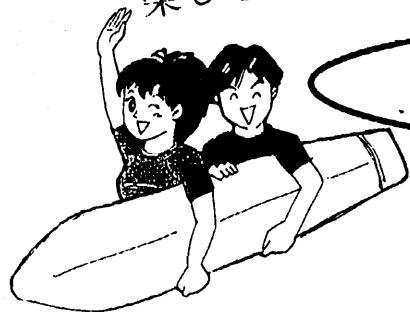


奥さんも交えての取材風景(ホ・ル・ローラー)

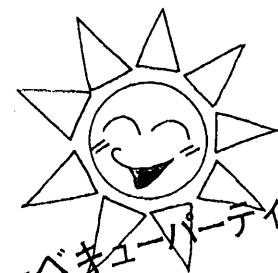
マリン・カレッジ

ヤングレディのみなさんへ

一緒に
楽しもう!!



海の幸とロマンを満喫してみませんか？



シーフードバーベキューパーティ
感動体験！地曳網
潮干狩り(お土産付き)
カラオケ etc...

特典

- ★その1
新鮮で、おいしい魚貝類が食べ放題
- ★その2
海の男は気前がいい
(青年漁業者は、リッチマンが多いヨ！)
- ★その3
いつでもマリンスポーツがOK

- とき/平成7年6月11日(日)朝9:30~14:00
(雨でもやりまーす！でも、内容は、一部変更します。)
- ところ/鹿島郡旭村柏熊新田海岸コテージ「石崎丸」
TEL0291-7-2542 (自宅)
TEL0291-7-1466 (売店)
- 対象/はつらつ元気なヤングレディの方々
(友人・知人の参加也大歓迎)



楽しい企画が、
盛りだくさん！
みんなおいでよ!!

参加費
無料

漁業士会で、負担します。

参加申込・お問い合わせは
<〆切り5月31日(水)まで>

茨城県漁業士会事務局

(担当/柳田・石川・庄司)

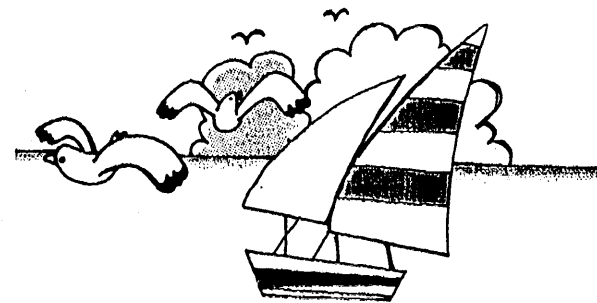
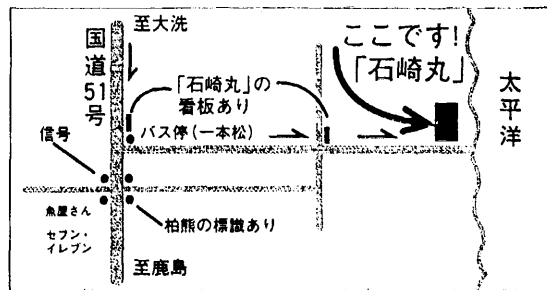
〒311-12 ひたちなか市平磯町三ツ塚3551-8

茨城県水産試験場 経営普及室内

TEL029-262-4158

FAX029-263-0414

主催/茨城県漁業士会 後援/茨城県



フェスタ・マリーナ

DE LA KASHIMA

海の幸と、
ロマンを
満喫しませんか



女性の夏は、まだ終わらない！
女性参加者募集！

☆リッチで気前のいい、
海のオトコが、貴女を
エスコート。

●とき／
平成8年 **8月31日** (土)
PM16:00~21:00(雨天決行)

●会場／ **アトンプレスホテル**

●募集人員／潮風の似合う元気なシングル
レディ(25才以上) 25名(先着順)
☆グループでの参加OK!

●参加費／3,000円(1人)

海とふれあう
イベント盛りだくさん!

■サンセット・クルージング
ラサロ・カルデナス号で海の幸を堪能

■交流パーティー

■ビンゴ・ゲーム(賞品多数) etc.

参加申込・お問い合わせは

茨城県漁業士会事務局

(担当/柳田・石川・庄司)

Tel 029・262・4158

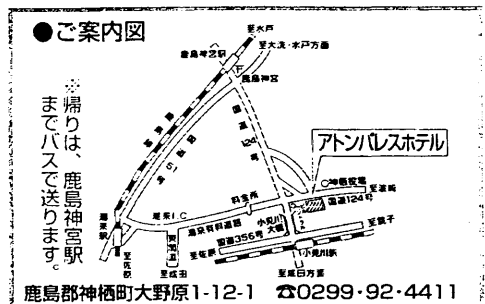
FAX 029・263・2058

申し込み締め切り
7月31日

■茨城県漁業士会事務局/〒311-12 ひたちなか市平磯町三ツ塚3551-8

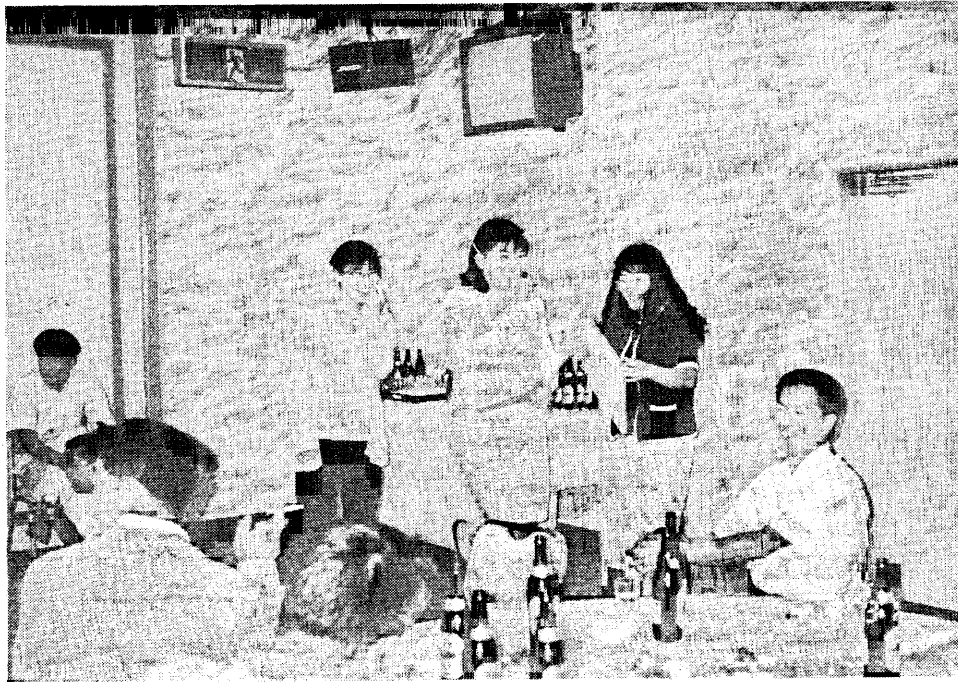
茨城県水産試験場 経営普及室内 ■主催/茨城県漁業士会 ■後援/茨城県

※お申し込みは、氏名、連絡先、TELを明記の上、ハガキかFAXでお受け致します。





第1回マリンカレッジ、地引網



フェスタ・マリーナ DE LA KASHIMA